

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791900014		
法人名	社会福祉法人 麗峰会		
事業所名	グループホームいえしま		
所在地	沖縄県国頭郡伊江村字東江前2337-2		
自己評価作成日	平成30年9月18日	評価結果市町村受理日	平成31年1月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4791900014-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4791900014-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成 30年 10月 10日(水)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症によって、自立した生活が困難になった入居者に対し、家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の支障及び心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ可能な限り営む事ができるように支援している。  
 ・それぞれが思い思いに過ごせるよう、出来る限り本人の希望に沿い、支援を行うように努めている。  
 ・毎週外出支援を行うなど(天候によっては中止)、外出への機会をもっといただけるよう支援するとともに、地域への買い物や住民との交流のもと、住み慣れた環境での生活を継続できるようにすることを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

離島であるデメリットを、密着した地域性を活かした協力体制を構築することにより改善がなされている。法人全体の経営理念が、地域のためのサービス提供を掲げており、職員がその理念を理解しその実現を念頭に支援を実施している。法人主催の運動会が全島行事となっており、地域全法人施設の利用者、家族友人関係者、職員や地域住民が参加している。又、全島の各字ごとの婦人会、老人会、サークルが舞踊や民謡、フラダンス、紙芝居、理髪ボランティアで訪問してくれる。カジマヤー等のお祝いや日常的に差し入れも多く、家族や友人知人、字の子供たちと交流し地域の中の施設として重要な役割を果たしている。「和顔愛語」のモットーが職員・利用者共に日々の生活に浸透している。利用者個々の意思を尊重した介護が実践され、家族や知人、関係者の訪問によりインフォーマルなサービスが充実している。設備、地域、人的それぞれ満たされた環境の中で、利用者のQOLの維持に配慮した支援が実施されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の理念を基本に、グループホームの運営目標を掲げ、それを満たし達成できるよう日々業務に努めている。</li> <li>・出勤時に理念や目標について再確認し、職員一人ひとりが心がけられるように玄関に掲示している。</li> </ul>	事業所理念は法人の理念を基本に職員全員で新たに作成した。職員は玄関に掲げられている理念を、再確認することで理念の中の「和顔愛語(わげんあいご)」の意味を深く理解し、介護業務の中で「心の主軸」にしている。又、申し送りやカンファレンス、日常支援の振り返りにも理念を活用し、グループホームの支援目標としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族や知人・友人が気軽に訪問され、日常的な付き合いが持っている。</li> <li>・週1回以上の外出支援を行うように計画し(天候によっては中止の週もあり)、地域へ出向き、買い物や住民との交流、牛や馬、ヤギなどの観察も行っている。</li> <li>・今年度は、2ヶ月に1回グループホーム喫茶を開催し、地域の方も参加せざるよう声掛けを行っている。</li> </ul>	法人主催の運動会に全法人施設の利用者、家族友人関係者、職員や地域住民が参加し「全島行事」になっている。又、全島の各字ごとの婦人会、老人会、サークルが舞踊や民謡、フラダンス、紙芝居、理髪ボランティアで訪問してくれる。中学生の希望者に車いす操作や食事介助の講習会を開催し運動会準備など協力を得ている。カジマヤー等のお祝いや日常的に差し入れも多く、家族や友人知人の訪問、字の子供たちと交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議でも認知症についての勉強会を行い、地域の方や家族の方に知ってもらえるようにしている。</li> <li>・また、村役場とも連携し、認知症についての理解啓発を図っている。</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議にて話し合われた意見などを参考に、実際に施工、再検討を行い、サービスに活かせるように努めている。また、その内容を委員へ報告しており会議録にまとめ閲覧可としている。</li> </ul>	会議は2ヶ月に1回、利用者、家族、区長、包括支援センターと住民課職員、担当者、介護支援専門員が参加し開催している。運営状況報告では入退居状況と多様な活動報告の後、職員の勉強会資料の読み合わせを行い質疑応答も盛んになされ充実した会議となっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼や、介護保険などに係る内容の相談や連絡、報告、また相互の情報交換などを電話や直接互いに訪問するなどしている。 ・認知症についての地域啓発活動の取り組みについて互いに支援している。	役場からは合同ミニデイの開催や認知症総合支援事業として認知症早期発見、地域ケア向上対策、地域住民の研修会で認知症初期症状に対応し地域で暮らしていけるサポート事業の紹介や認知症カフェを地域で開催し、グループホーム喫茶と連動し「心の相談や認知症ではないか？」等の相談の場を提供したいと相互に連携している。又災害時の避難や独居世帯の対応も連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・法人内で、身体拘束・虐待防止委員会が設置されており、定期的に会議を開き身体拘束防止についての理解等に努めている。 ・玄関の施錠については日中は行っておらず、防犯関係上、夜間のみ施錠している。	法人内で身体拘束、虐待防止委員会を3か月に1回開催し、各部署の状況や意見交換し身体拘束防止の理解を深めている。現在は身体拘束もセンサー使用もなくナースコール対応を望まない利用者には楽器の鈴で対応している。利用者が要望する外出や買い物も気軽に応じ、レクや活動に対しても参加したい時に参加し楽しんでいただく事を大切にしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人内で、身体拘束・虐待防止委員会が設置されており、定期的に会議を開き、身体拘束防止についての理解等に努めている。 ・また、少しでも疑われる事があれば上司や他職員へ報告・相談するようにしている。	法人内で虐待防止委員会を3か月に1回開催し、各部署の状況や意見交換し虐待高速防止の理解を深めている。倫理に掲げている「和顔愛語(わげんあいご)」の精神に立ち、利用者が安心して穏やかに暮らしていけるよう「何時でも何処でも自由に表現できる環境」を提供できるよう声掛けや態度等に留意し、服薬や入浴・排泄等の直接介護には特に配慮し日常支援を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全体会議等にて、定期的に勉強会や話し合う機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度に関しては、新規入居契約はなし。</li> <li>入居後の相談や不安等があれば、いつでも相談して頂くよう声掛けを行っている。</li> </ul>	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談窓口を設けている。</li> <li>運営推進会議や家族会総会、また日常的に意見や要望を聞く機会を持っており、運営に反映できるような体制も整えている。</li> </ul>	利用者は朝食後に新聞読みたい、外出や洋服の買い物に行きたい、天麩羅やテビチ三枚肉が食べたい、カラオケがしたい等の要望があり、週1回のドライブやレク活動等の日常活動に組み込み要望に沿った支援をしている。家族は面会やグループホームの行事予定等に参加することを楽しみにし、今は法人運動会に向けて盛り上がり利用者家族や地域住民に密着した「一大イベント」となっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>各会議や申し送り、また日頃から常時意見などを出し合い話し合うなど、その都度検討し反映、改善できるようにしている。</li> </ul>	利用者の状態や介護目標、支援方法等は申し送りや会議で共通理解を深め、支援項目や方法の統一を図っている。又、日々の活動や行事等の担当は職員の得意分野が発揮できるよう分担している。職員が安心して就労を継続できるよう「子育て時期の急な休暇や学童期の行事参加の休日等」にはシフトを工夫し対応している。国家資格の介護福祉士や介護支援専門員の資格取得にも積極的の協力している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭環境や希望など、それぞれの状況把握に努め、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。</li> </ul>	職員が働きやすい職場になる様「勤務形態や勤務シフト」の要望を調整し勤務シフトを作成している。休憩時間や休憩所の確保、急な家族の発病等に休日の調整を行い、職員の「子育て時期に理解を示し」就労を継続しやすい環境を提供し、止む無く退職した職員の復職にも積極的であり法人管理者が気軽に声掛けをしてくれ相談し易い職場であり、給与や退職金制度等待遇も安心出来る職場である。	離島の当事業所の職員が国家資格等を取得するにあたり、休日・交通費・宿泊費等の負担があり、資格を得たいとの思いは強くても困難な状況が想定される。高校・大学進学に相当する社会人に対する「制度」があればより可能になり「意欲と資質の向上に」繋がると考えます。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・各会議にて計画的に勉強会等を行っている。 ・H30年度今日現在までは、外部研修参加はなし。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・機会があれば設けられるようにしてはいるが、島内の同業者はほとんど顔なじみということもあり、気軽に声掛けでき、互いの情報交換など行っている。</p>		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・希望や要望、相談等の聴き取りを行えるように努めている。 ・皆さん村内在住の方々でほとんど顔なじみなので、話しやすく聞きやすい関係性である。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・同上</p>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・H30年度、今日現在は入居契約がないので、項目の対応はなし。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家事を一緒に行ったり、家庭的な雰囲気でも過ごしていただけるようにしている。また、入居者の方々自らも積極的に家事をしてくださる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人の状況を報告したり、本人の思いを家族の方へ伝えたりしている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・離島ということもあり、家族や知人、友人が島内に多く在住しているため、面会なども多い。また、同じ法人内の事業所へ訪問に行ったり、反対にGHに来られたりと、交流が多い。 ・ドライブ、買い物支援という名目で週一回外出するようにしており、その際も地域を回ったりしている。	グループホームの行事や喫茶には家族や各字の老人会、婦人会、多様な同好会が訪れ、野菜や果物、魚、手作りのお菓子などの差し入れをしながら多く島民の「憩いの場」となっている。利用者家族は村や地域主催の行事参加を楽しみにし、入所後も地域の高齢者から子供まで慣れ親しんで交流し「地域密着型の事業所」としての役割を担っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係把握に努め、トラブル回避や孤立しないように気をつけている。また、入居者の皆さん同士で出来ることなどは、職員が見守りながら、支え合える関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・H30年度、今日現在は利用(契約)終了はなし。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いや希望を常に受け止め、共に可能な限り実現に向けて取り組んでいる。	利用者家族は、在宅生活で行っていた、やりたい事や出来る事を自発的に行い地域交流を継続し、元気に穏やかに暮らしたいと考えている。事業所の壁に貼ってある「夢・希望・願いの木」には「家族と北海道に行きたい。甲子園の高校野球を観戦したい。海に釣りに行きたい。皆と仲良く毎日過ごしたい。酉年に孫が生まれますように！」と木の枝に書いてあり、利用者のありのままの思いや意向を受け入れる姿勢で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前調査で聞き取られた情報や、入居後も気になる点などあれば本人や家族からの些細な情報も把握できるようにコミュニケーションを取っている。また、その情報を共有できるよう、申し送りや会議にて周知するようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日頃から一人ひとりの状況把握に務めるとともに、月一回のGH会議では9名全員の現状把握や今後の対応について、毎日の申し送りではその時々の問題などについて様々な視点から意見交換をし、現状を把握できるよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアカンファレンスやその時々において、課題が発見された場合にそれぞれの意見を交換しあい、本人のより良いケアの確立に努めている。	介護計画は利用者家族、担当職員、介護支援専門員が申請時や状態変化時にサービス担当者会議で利用者家族の「何時までも楽しく美味しく食事がしたい」等の思いや要望を聴取し、介護目標や支援項目等を作成している。モニタリングは3か月に1回行い利用者の活動記録を月1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・業務日誌の個別欄に記入し、情報共有と課題発見、見直しなどに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々に応じて、急な外出支援の場合でも相談にのって柔軟な支援を行っている。 ・選挙の投票のための外出支援も行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・防災訓練の際は、伊江村消防団や地域との連携、協力を図っている。 ・ボランティアや実習生の受け入れも、地域や外部機関からの要請に応じて積極的に受け入れたり、またはこちら側からボランティアの受け入れを要請するなどしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・離島ということもあり、全員が伊江村立診療所がかかりつけ医となっている。そのうち一名の方のみ、別の治療で本島の病院へ定期的に通っている。 ・本人や家族の希望を第一に適切な医療が受けられるよう、家族や医師へ代弁を行うなどしている。	利用者9名は、地元の診療所がかかりつけ医となっている。地域性もあり、診療所とは密接な関係性があり信頼関係を構築している。受診時の対応は、基本的に家族で担っており、申し送り事項を事業所が文書を作成し、医師の診断に活用している。受診後は家族から情報収集を図り、日常の介護に配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の状態観察や健康管理を行い、異常や変化がある場合はその都度、看護師へ報告、連絡、相談を行い、受診が必要な場合は家族へも連絡し協力をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と家族と施設と連携をとり、入退院がある場合に備えて定期受診などで状態の変化など報告を行っている。(現時点でH30年度入退院はなし)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>入所契約時に必ず重度化に関する指針を家族へ説明し、同意を得ている。(H30年度、現時点では契約なし)</li> <li>終末期についての内容は、事業所としての方針や出来ることなどを周知、共有している。</li> </ul>	<p>これまでに、看取り経験は4年前に実施した。家族の要望があり、1か月弱の期間実施した。法人内の特別養護老人ホームの方針を参考に事業所独自の方針を定め、職員間で共有している。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>月一回の全体会議等の勉強会年間計画に沿って、今年度は緊急時の対応や事故発生時の対応の勉強会を行った。応急、AEDなどの心肺蘇生について実践を交えての勉強会は今後行っていく予定とのこと。</li> </ul>	/	
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練を年2回実施。また、県広域地震・津波避難訓練も参加。伊江村消防団、農協ガス、伊江交通の協力も得て行っている。</li> </ul>	<p>地域性もあり、関係機関の協力体制が構築されている。年2回の訓練も手順にのっとり、関係機関の協力を得て実施している。 敷地内に法人の特別養護老人ホームが隣接しており、夜間時の体制は整備されている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念に基づき、愛・真心・誠意を持った対応を全職員で心がけるように努めている。</li> <li>プライバシーに関する勉強会や、職員指導もその都度行っている。</li> </ul>	<p>「和顔愛語」(わけんあいご:穏やかな笑顔で、優しい言葉かけ)というモットーが法人の理念として掲げられており、職員に浸透している。常に利用者へ笑顔で接し、言葉遣いも丁寧に行うことが配慮されている。</p>	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・やりたいことがあるか、行きたいことがあるか、本人の思いや希望を随時聴き取り、最大限反映できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・生活の中で、その都度本人の意向を確認しその意向に沿って支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・起床時や入浴の着替えの際は好みの衣類を自ら選んでいただくようにしている。 ・理容に関しては、ご家族の方が訪問して散髪して下さったり、行きつけの理・美容室へ家族の方が連れて行ってくださったりしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・嫌いなものは他のメニューに変更するなどの対応をして、食事が楽しみになるよう配慮している。 ・準備や片づけに関しては、その日の流れによるが、基本的には下膳のお手伝いやお膳拭きを中心に行っている。	食事の献立は、法人内の栄養士によって作成されている。献立に沿って、メインのおかずは法人内で調理され提供される。ごはんや汁物、夕食については、事業所内で職員により調理され提供している。 昼食時には、職員も同席し、利用者と同じメニューの食事をとっている。利用者も配膳や片づけなどに参加している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母体の特養管理栄養士により献立が作成されている。</li> <li>・食事や水分量チェック、排泄チェックもおこない健康状態の把握に努めている。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後、個別の能力に応じた口腔ケアを行っている。</li> </ul>		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄動作の範囲や排泄パターン等を把握して、定時で誘導したりするなど、出来る限り本人が気持ちよく排泄できるように支援していく。</li> </ul>	<p>排便表、排尿チェックシートが完備されている。結果をパソコンに入力し、利用者の排泄パターンの把握に活用している。個々の利用者に応じてトイレへの誘導を行い、排泄できるように支援している。</p> <p>又、トイレが広く男性用の尿器も完備している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の状態に応じて水分摂取を促している。乳製品を中心に3種類ほど準備し提供している。食材なども工夫し便秘症の方への配慮をしている。</li> <li>・便秘に関する勉強会などをおこなっている。</li> </ul>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴への声掛けを行い、本人の希望に沿って支援している。また、男性職員と入浴を拒否される方は女性職員と入浴するなど配慮している。	基本的に同性介護を心がけている。頻度は、週に2回入浴チェック表を作成し、清潔保持に配慮している。 入浴拒否がある場合は、無理強いせず、チェック表を参考に声かけを変えたり、担当者を変えたり、個々の利用者に適した方法で介護を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人のこれまでの生活習慣や現在の身体状態を把握し、時間帯によって声掛けを行い、それぞれのペースで休息・安眠できるよう支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の確認や二重チェック、症状の早期発見などに努め、変化や異常があるとき、または気になることがある場合は看護師や医療機関、薬局へ報告・連絡・相談を行うようにしている。	定期的な受診後、薬を受け取り、担当者が処方箋を確認し個人用のボックスに保管する。夜勤担当者が翌日分の服薬分をセットする。服薬時には、複数で確認し誤薬防止を行っている。業務日誌に服薬のチェック項目があり、最終的なチェックを実施している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・これまでの生活歴や残存機能を生かすために、趣味活動や家事手伝い、散歩に出かけるなどの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や天候にもよるが、毎週一回は外出支援が行えるようにしている。その際、行きたい場所があれば希望に沿って行くよう努めている。</li> <li>・家族の協力のもと本島へ出かけられたり、島内の理・美容室へでかけたり、お祝いごとに出席したりということもある。</li> </ul>	週に1回の頻度で、外出支援を実施している。島内のスーパーでの買い物が中心である。食料品を中心としたスーパーであるが、駐車場内に様々なテナントがあり、女性の利用者は、衣服等に興味があり、買い物やウインドーショッピングを楽しんでいる。自宅周辺へのドライブも要望が多く、できるだけ応えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭の所持は自由としているが、管理は本人やご家族にお願いしている。</li> <li>・希望があれば、買い物支援などで使う分の少額のみ預かる管理は行っている。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのときの状況に合わせて支援できるようにしている。</li> </ul>		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観葉植物や、季節ごとの花を飾ったり、行事ごとの写真を飾り見ていただいたり、月ごとに歌を貼り出していつでも口ずさめるよう、楽しみながら穏やかに過ごしていただけるようにしている。</li> <li>・リビングの模様替えも、入居者の方々に支障がない程度に、また随時説明しながら居心地の良い空間づくりを維持できるように取り組んでいる。</li> </ul>	家庭的な環境で、広い玄関は開放的であり、訪者が訪ねやすい環境になっている。玄関には、観葉植物の配置や行事の写真等が掲示され、利用者の活動の様子を見ることができ。リビング横には和室が配置され畳の上で過ごすことができる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングでの座席の配慮や、ソファやテラスで過ごしたり、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に、自宅で使用していたものを持ってきていいですよと説明されている。 ・入居後も、居室内の整理整頓などで定期的に本人や家族と話し合う機会を作っている。	自宅で使用していた、棚やかご等、身の回りの者を持参し、安心できる環境の整備に配慮している。 各居室は、整理整頓が行き届いている。 年に2回大掃除を実施している。その際には、家族に協力を呼びかけ、衣替えを実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者の皆さんの出来ることを把握し、混乱や失敗のないよう声掛けをしながら時には一緒に行うなど、なるべく自立した生活が送れるよう支援している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	離島ということで、資格取得や研修等への休日の確保や費用面での負担が大きい。	希望者がいればスムーズに参加できるように取り組んでいきたい。	・研修などへの参加希望者を募る。職員の方からも、参加したい研修を探してもらい問い合わせてもらおう。休日や費用など、対応できるように相談していく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。